

(写真・文 太田祥作)

## アナグマ (学名: *Meles anakuma*)

【ネコ目イタチ科】



▲ アナグマの親子 (奥が親、手前が子)



▲ 砂防堰堤上に現れたアナグマ (荒島地区にて撮影)

アナグマはイタチの仲間の中<sup>ちゅうがた ほにゅうい</sup>型哺乳類です。よくタヌキと間違われますが、タヌキはイヌの仲間で、よく見ればアナグマは鼻先が長く、体形や色模様も異なります。アナグマは日本固有種で、本州・四国・九州の山地に分布します。只見町にも生息しており、基本的に夜行性ではあるものの、日中でもその姿を見かけることがあります。

アナグマは優れた嗅<sup>きゅうかく</sup>覚をもち、地中のミミズなどの土<sup>ど</sup>壤動物を好んで食べるほか、昆虫やカタツムリ、カエル、果実などを食べる雑<sup>ざっしょくせい</sup>食性です。さらに、前足の爪が長く伸びており、これで土の中に長いトンネルを掘<sup>ほ</sup>って巣<sup>す</sup>穴<sup>あな</sup>を造ります。ただし視力が低いため、人がいることに気付かずにこちらへ歩み寄ってくることも少なからずあり、ちょっと間抜けな動物とも言えます。

アナグマは冬ごもりをし、11月から春までは巣穴の中で過ごします。雌親はこの間<sup>かん</sup>に出産し、翌年の初夏には母子で連れ立って行動する様子が見られるようになります。冬<sup>ま</sup>真<sup>ただな</sup>っ只中の今頃、アナグマは巣穴の中で過ごしていることでしょう。

ちなみに、只見の地方名では「マミ」と呼ばれ、その肉は鍋などに入れて食すと美味であったと言われていました。

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター（電話 0241-72-8355）までお問い合わせください。

企画展「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」

会期：2024年11月9日(土)～2025年6月30日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー